

# 1.流域の自然状況

## 1-1 斐伊川の概要

斐伊川はその源を、鳥取・島根の県境である島根県仁多郡横田町の船通山（標高1,143m）に発し、途中三刀屋川等の多くの支川を合わせながら北に流れ、山間部を抜けて下流に広がる出雲平野を東に貫流し、宍道湖、大橋川、中海、境水道を経て日本海に注ぐ幹川流路延長153km、流域面積2,070km<sup>2</sup>の一級河川である。

斐伊川流域の上流部は、風化花崗岩が広く分布し、江戸時代から「鉄穴流し」とよばれる砂鉄採取が盛んに行われ、土砂の流出が著しく多かったため、全国的にも例を見ない天井川となっている。また、下流部に湖面積79.1km<sup>2</sup>の宍道湖、86.2km<sup>2</sup>の中海の2大湖沼を抱える特殊な河川である。

日本列島は太古の昔、中国大陸と陸続きで、氷河期が終わると海面が上昇して日本列島の原型が出来上がり、宍道湖・中海は、島根半島と中国山地の間にあった入海が、斐伊川等が運んだ土砂によって塞がれてできたと言われている。

「出雲はわけても神々の国である」と、その感動をこめて讃歌したのはラフカディオ・ハーン（小泉八雲）であった。その出雲の昔から現在まで、悠久の歴史を結ぶ流れが斐伊川である。斐伊川は、流域に繰り広げられてきた人々の生活史とともにあった。この出雲最大の川について、『出雲国風土記』では主に山間部で「斐伊川」、「斐伊河」、「斐伊大川」、平野部で「出雲大川」、「出雲河」等と記されており、「源は伯耆と出雲との二国の堺なる鳥上山（船通山）より流れて…北に流れ、更に折れて西に流れ、即ち伊努（出雲市北部）、杵築（大社町南部）の二郷を経て、神門水海に入る。……」（かんのみずうみ）としるしている。

斐伊川は、かつて出雲平野を西流し神門水海（現在の神西湖はその名残）を通じて大社湾に注いでいたが、寛永12年（1635年）、同16年（1639年）の洪水を契機に完全に東流し宍道湖に注ぐようになった。



図1-1 往古簸川西流絵図（一名出雲郡往昔大概図）

出典：島根県立図書館所有 資料

出雲地方には、“神話の故郷”といわれるほど、数多くの神話が残っており、その中でも「一つの体に八つの頭を持ち暴れまわっていた八岐大蛇を須佐之男の命が退治した」という『八岐大蛇退治』は有名であり、現在も神楽等によって語り継がれている。この八岐大蛇に例えられるのが「斐伊川の洪水」で、古来より氾濫を起こしては、流域に多大な被害をもたらしてきた。



図1-2 斐伊川流域図

出典：出雲工事事務所作成

## 1-2 地形

斐伊川は起伏が穏やかな烏帽子山山地の船通山(標高1,143m)に端を発し、仁多丘陵に開けた横田盆地にゆるやかに流れる。その後、山間溪谷部を急流となって下り、谷が開けた中流部では、久野川、三刀屋川、赤川など支川の合流点に比較的幅の広い谷底平野が存在し、堤防を有する河川となる。

下流部には、かつて海であったところが上流からの土砂流入により形成された標高5m程度の出雲平野が広がっており、流路を北から大きく北東に転じつつ宍道湖へと流入する。

標高差のあまりない出雲平野に至った斐伊川は、上流からの土砂が大量に堆積し天井川を形成しているため、災害ポテンシャルが非常に高くなっている。

宍道湖、中海は、斐伊川、飯梨川、日野川などによる土砂流入で埋め残った汽水湖であり日本海と水位差がほとんどなく、宍道湖と中海を結ぶ唯一の天然河川である大橋川は、約1万年前の分水嶺に位置し地理的に流れにくいこともあって、宍道湖周辺は水はけが悪く、浸水が長期化しやすい地形となっている。

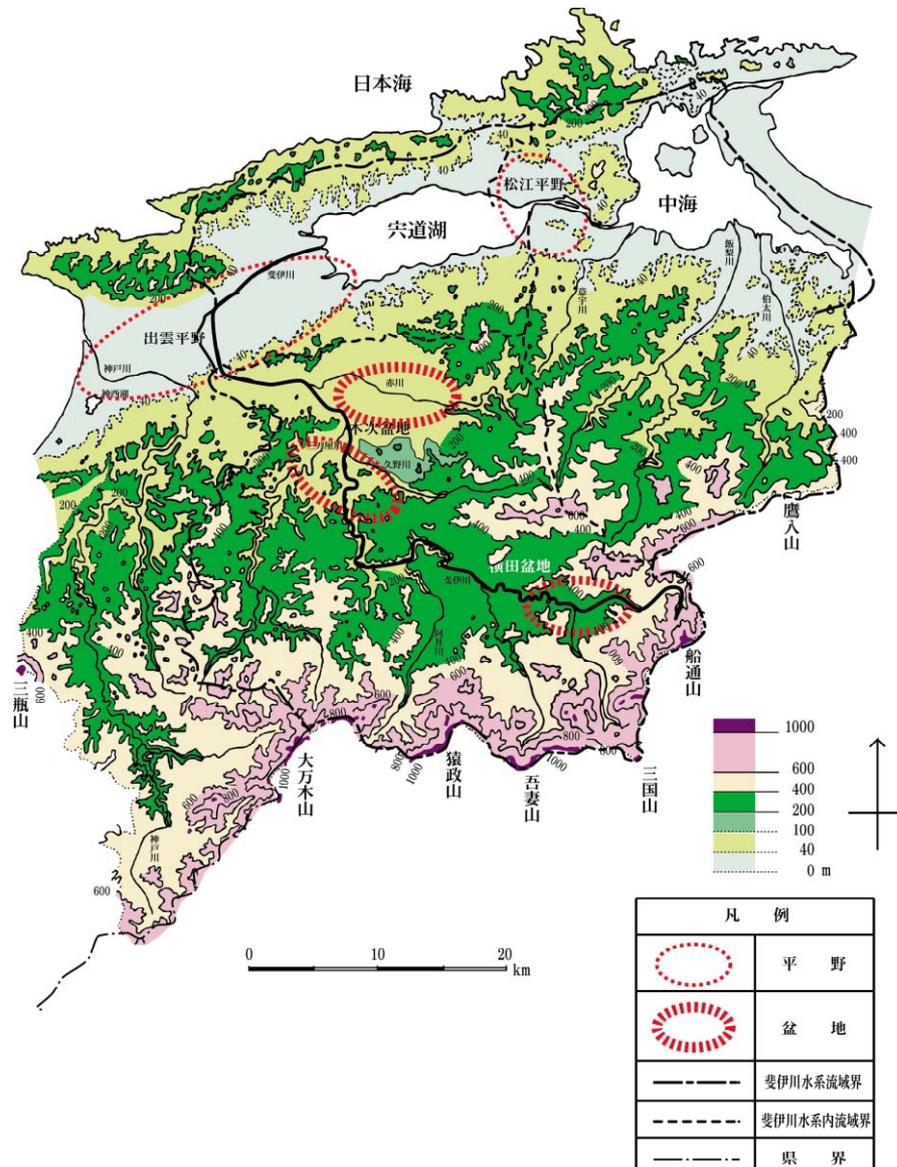


図1-3 斐伊川流域の地形図

出典：出雲工事事務所作成

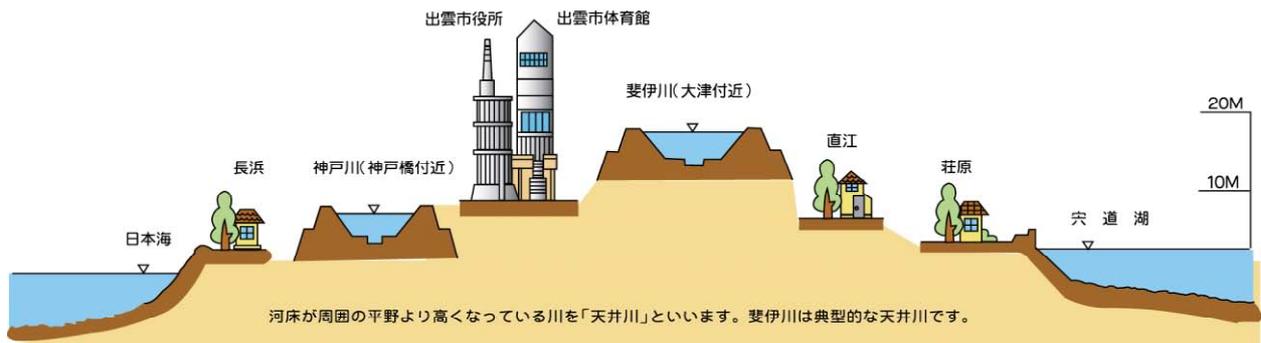


図1-4 河床高と堤内地盤高比較図

出典：出雲工事事務所作成

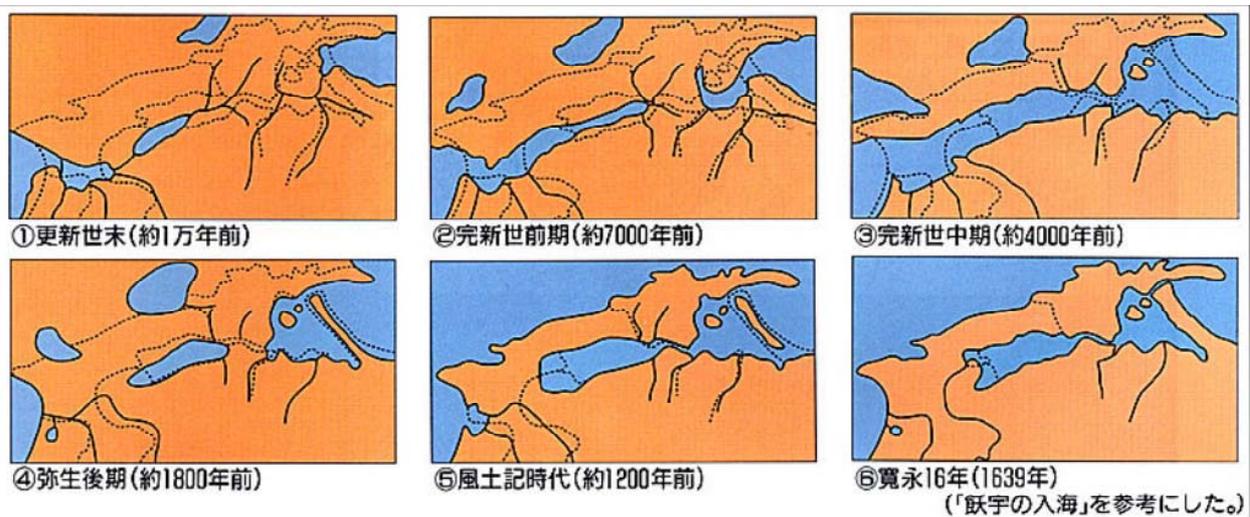


図1-5 下流域の変遷

### 1-3 地質

流域の上中流部には花崗岩などの深成岩が広く分布し、山陰地方で古第三紀に貫入したものは田万川深成岩と呼ばれている。本地域における花崗岩類は閃緑岩～花崗閃緑岩が主体で、深層風化が非常に顕著で、風化した基盤岩は「マサ土」と呼ばれている。横田や三成、阿井、大東～三刀屋などの小盆地郡はこれら閃緑岩～花崗閃緑岩が浸食されて形成された浸食盆地である。田万川深成岩は磁鉄鉱の含有量が大きく、閃緑岩～花崗閃緑岩も深層風化によって掘削が容易なことから、両者の分布地域では古来より、「<sup>たたら</sup> 鋸」の原料の山砂鉄が広く採掘されてきた。また宍道丘陵と島根半島丘陵には中新世火山岩・火砕岩や中新統が分布しており、沖積層が両者にはさまれた宍道低地帯の出雲平野、意宇平野、安来平野などの三角州平野を形成している。

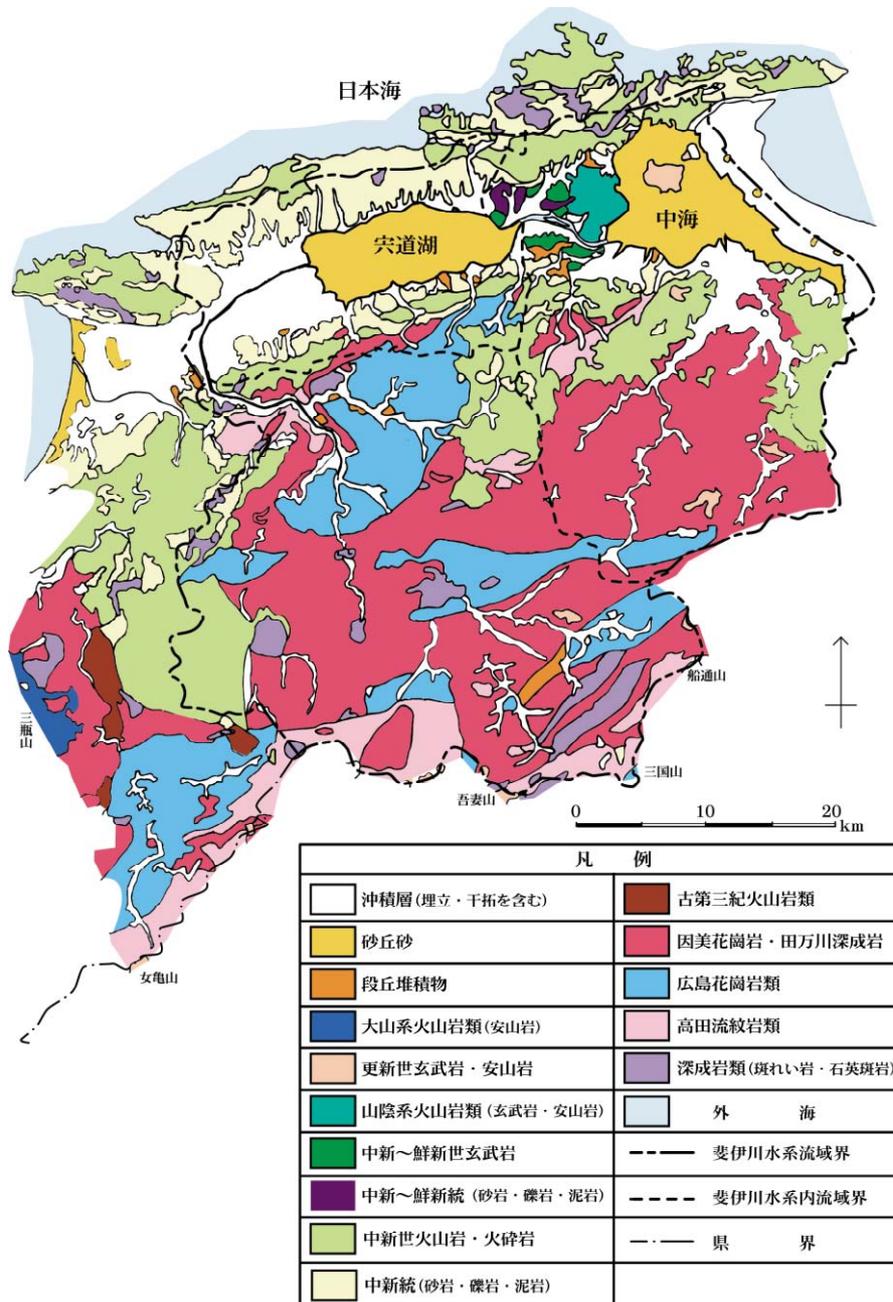


図1-6 斐伊川流域地質図

出典：国土交通省中国地方整備局所有 資料

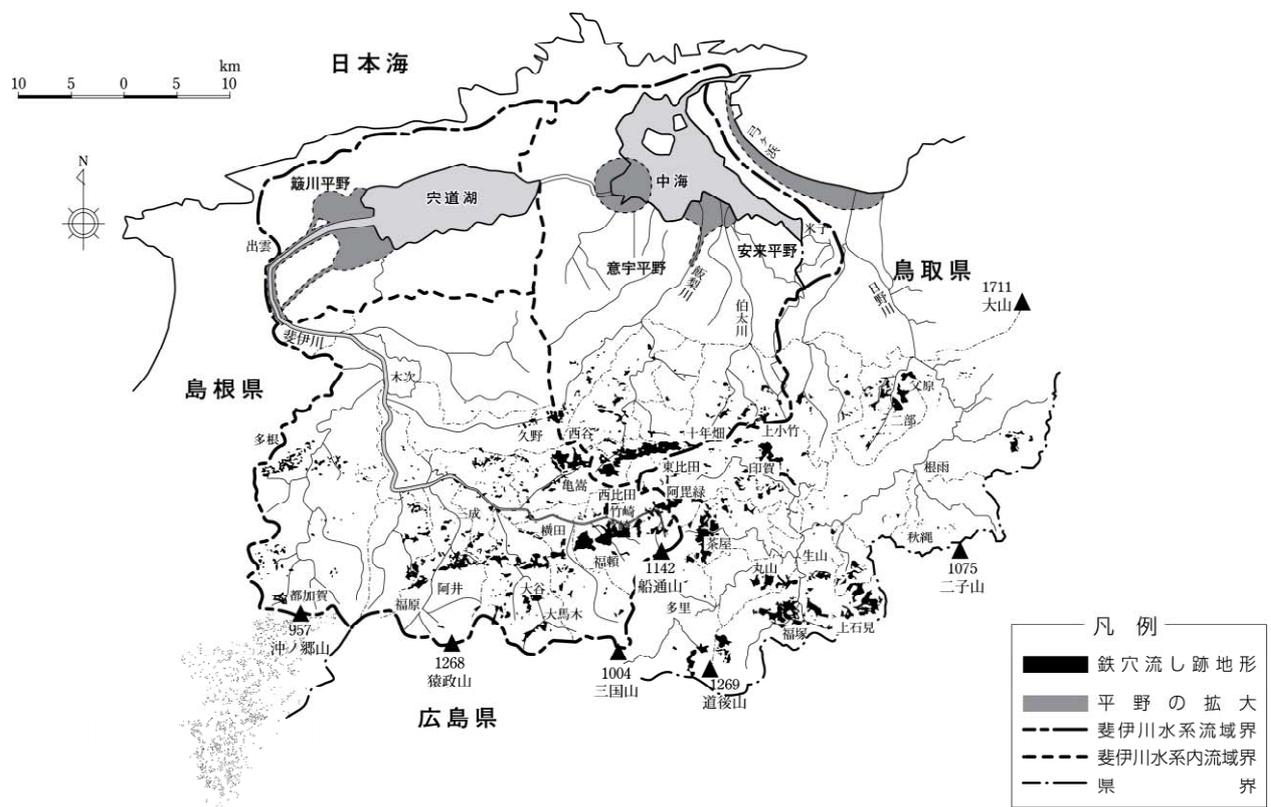


図1-7 斐伊川・日野川水系における鉄穴流し跡地の分布と近世以降の平野の拡大

出典：出雲工事事務所作成



鉄穴流し

出典：和鋼博物館所有 資料

